



写真3:アオサの肥料実験開始から40日後



写真2:アオサの肥料実験開始

●12月2日【4か月間、咲き続けた】  
12月に入り、夏の花によるアオサ肥料実験を終りました。結果は以下の通り。  
・海水がついたアオサを入れても花は

●9月6日【変化が出た!】(写真3)  
9月に入り、花を植えてから約40日が過ぎました、涼しい秋風が吹くようになった頃から両者に著しく変化が現れはじめました。アオサを入れたプランターの方が株がより大きくなり、花の数も多くて葉の色やツヤも良く、アオサを入れなかった花との差が出ています。

●8月22日【変化がある?ない?】  
植えて20日が経ちました。強い日差しで土が乾燥しないように、と受講生のKさんが毎日、水やりと芽摘みなどの管理作業を行ってくれました。献身的な管理と夏の陽光を浴びて、アオサ入りもアオサなしも共に枯れることなく無事に成長しました。両方のプランターの株で大きな差や違いは感じられません。

・海水がついたアオサを入れても花は  
・アオサは厄介者として扱われる以外、見向きもされない存在になっていますが、こうした取り組みを重ねていくことで、谷津干潟のアオサの理解が深まり、地域の課題として共有できる可能性を感じることができました。

さて、今回の栽培実験では、公園を散歩する道すがらプランターの様子について興味を持って観察される方が多々いらっしゃいました。実験の趣旨について説明をすると、アオサの肥料効果に驚く方が多かったです。現在は、アオサは厄介者として扱われる以外、見向きもされない存在になっていますが、こうした取り組みを重ねていくことで、谷津干潟のアオサの理解が深まり、地域の課題として共有できる可能性を感じることができました。

枯れなかった。  
・アオサ入りはアオサなしに比べて、株が大きくて花芽の数が多く、葉の色やツヤも良かった。  
・アオサ入りプランターは約4か月間、花を咲かせた。  
よって、アオサは花の肥料として活用できる可能性があると考えられます。



楽しみ方  
いろいろ  
谷津干潟

### 谷津干潟のアオサ -その3-

## 谷津干潟の アオサによる肥料実験



写真1:アオサ乾燥作業

谷津干潟で増える緑色の海藻、アオサ。これが増えて腐ってしまうと悪臭がします。それだけでなく、干潟の泥や水の状態が悪くなり、泥の中にすむゴカイや貝が死んでしまうなどの影響があります。では、アオサはただ迷惑な存在なのでしょうか。

じつは、干潟が埋め立てられる前の東京湾奥部の海岸では、浜でアオサを干す光景が見られました。アオサは畑の肥料や鶏の飼料、青のりの原材料として、谷津の海岸でもアオサが採集され、地元の人々の生計の一部を支えていたのです。

しかし、戦後から海苔の養殖が盛んとなつてからは徐々にアオサの利用がなくなり、化学肥料の普及や干潟そのものの埋め立てによってアオサが利用されることはなくなりました。

観察センターでは、谷津干潟を守るために市民参加の考え方を基本として様々な取り組みを行っていますが、アオサの問題についても地域の方との協働の取り組みが重要と考えています。

今回は、習志野市主催の習志野市民カレッジで今年度、新たに設けられた「谷津干潟コース」にて、アオサの活用実験を試みたので、その結果をご報告したいと思います。

アオサの肥料としての効果を確かめるため、以下のようにプランターで花を栽培してみました。

●7月17日【アオサ回収作業(写真1)】  
市民カレッジ19期生の皆さんが干潟に入り、アオサ回収作業を実施。回収したアオサは、水で洗わず、そのまま干し台に広げて天日で干しました。

●7月31日【花を植えました。アオサの肥料実験開始】(写真2)  
植える花の種類は、ニチニチソウやペンタスなど夏の暑さに強い花で試してみました。干してパリパリに乾いたアオサを細かく砕き土の中に混ぜ込みました。色の濃いプランターはアオサ入り、白いプランターはアオサを入れていないものです。プランターは、観察センター正面の広場の横の芝生に設置しました。

●7月31日【花を植えました。アオサの肥料実験開始】(写真2)  
植える花の種類は、ニチニチソウやペンタスなど夏の暑さに強い花で試してみました。干してパリパリに乾いたアオサを細かく砕き土の中に混ぜ込みました。色の濃いプランターはアオサ入り、白いプランターはアオサを入れていないものです。プランターは、観察センター正面の広場の横の芝生に設置しました。